

新会長のご紹介

新会長の挨拶

作業療法学専攻5期生 浦田 大介

日頃は本会の活動に対しご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この度、西九州大学リハビリテーション学部同窓会会長の任を仰せつかりました、作業療法学専攻5期生の浦田大介と申します。現在は神崎市社会福祉協議会で勤務をしています。

今年度より新会長となり挨拶を任せられましたので、簡単ではありますが本会の歴史や活動内容などの話をさせていただきます。昨年の島田恭憲前会長の挨拶と同様の内容になりますが、今年度から広報誌をご覧になる方もいるかと思しますので、あえてお話をさせていただきます事をご承知おください。

本会は平成24年にリハビリテーション学部卒業生の第1、2期生によって創立されました。創立当初は理学療法と作業療法に分れて同窓会の運営を行っていましたが、平成25年からは合同で行われています。当同窓会立ち上げは世話役を担当して頂いたリハビリテーション学部の先生方、初代会長松本雄次氏、副会長新藤浩氏が中心となって行われ、現在の同窓会を形作られました。令和元年より会長を島田恭憲氏、副会長を市川誠氏が務めておりました。そして、令和5年より会長を浦田大介が、副会長を市川誠氏が継続して務めることにな

りました。

今年で創立13年を迎えた同窓会ですが、現在13期生まで卒

業し、卒業生の数も約800名となり、大きな同窓会に育ちつつあるところです。創立後より卒業生の自己研鑽、情報交換や親睦を深める場を提供できるように、卒後研修会や研修会後の懇親会を主な事業として行っておりまして、10周年の節目にはリハビリテーション学部創立10周年記念学術大会や、卒業生だけでなく先生方を交えてのボウリング大会、国家試験終了後の在学生への記念品贈呈など、研修会以外の事業も企画・開催を行っているところです。そして、今後も会員や在学生の方々がどのような企画を希望しているのか、希望に対してどのような還元方法があるのか、研修会も勿論ですが、様々な還元方法を検討し、更なる発展を目指していきます。また、近年は新型コロナウイルスの影響で研修会がリモートのみでの開催となっていました。今年からは対面での研修会を再開することができました。まだまだ以前のように対面での研修会や懇親会に参加しにくい現状は続いておりますが、今後も多くの同窓生の皆様に参加していただけるような企画を考え、卒業生の自己研鑽、情報交換や親睦を深める場の提供ができるよう活動していきます。

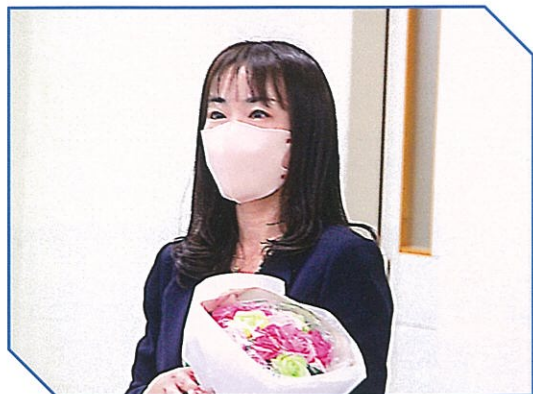
今後とも卒業生の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。





長い間お世話になりました。

退職された先生からのごあいさつ



西九州大学 リハビリテーション学部 同窓会の皆様へ

作業療法学専攻 仙波 梨沙

私は 2018 年に西九州大学に着任いたしました。教員としての初めての職場で、教員として関わらせてもらったのは 9 期生からですが、それ以前にも大学院生時代や地域活動などで皆様と顔を合わせる機会も多かったかと思います。

初めは、うまく講義ができず、毎回落ち込んでいたことを思い出します。今だから言えますが、学生さんたちの顔と名前が覚えられず、時間のある時に名簿の顔写真を見て覚える練習をしていました。

教員の仕事は聞いていたよりも大変で、想像もしていなかった仕事がたくさんありました。その中には、今まで自分が苦手としていたこともありましたが、「仕事だから」と言い

聞かせながら自分を奮起させていました。その経験が、今の新しい職場でとても役立っています。あの時、「その仕事はできません」「無理です」「時間がありません」と言わなかったことが、今につながっているということを実感しています。

最後になりますが、西九州大学に関係する皆様と出会い、様々な経験をさせていただきましましたことに、心より感謝申し上げます。どうか皆様、ご自身の心と身体を大切にしてください。



卒後研修会

西九州大学リハビリテーション学部同窓会では、年に 1 度同窓会が企画・運営し、卒後研修会を開催しています。

2022 年度は千里リハビリテーション病院の吉尾雅春先生と、東京都立大学（現 大阪河崎リハビリテーション大学大学院）の大嶋伸雄先生をお招きし、研修会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、オンラインでの開催でしたが、たくさんの方にご参加いただきました。

吉尾先生の講義は「脳画像から見た脳卒中患者の姿勢制御と歩行」をテーマに、脳画像だけでなく、患者の動画等を用いてわかりやすく解説していただきました。参加者の方からも「画像所見や伝導路、症例の画像などのデータが豊富に記載されていて、とても見やすく、分かりやすかったです」とたいへん好評でした。

大嶋先生には「認知作業療法やリハビリテーションカウンセリング」をテーマに講義していただきました。講義だけでなく「カウンセラー役」「クライアント役」に分かれての演習もあり、大変有意義な時間となりました。参加者の方からも「とてもわかりやすかったです。臨床での疑問点が整理でき、臨床で活用し、カウンセリング+活動のスキルを身に付けていきたいです」との感想が寄せられていました。

また、「講義時間は 3 時間でしたが、内容が興味深くあつという間に時間が過ぎてしまいました」「両方聞くことで OT にとっては非常にバランスを感じました」との感想も寄せられ、役員一同、この卒後研修会の意義を感じる良い機会となりました。

ご参加いただいた皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。

同窓会では今後も定期的に研修会を開催していく予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。



大学院生アンケート

アンケート内容

- ①氏名・出身大学(〇期生) ②所属 ③大学院に進学したきっかけは? ④なぜ西九州大学の大学院を選びましたか? ⑤大学院でどんな研究をされましたか? ⑥指導教員の先生を一言でいうと? ⑦大学院への進学を考えている方に一言!

- ②介護老人保健施設 舞風台
③研究について詳しく学びたかったからです。
④出身大学であったためです。
⑤回復期リハビリテーション病院に入院する脳卒中片麻痺患者が不使用となっていた麻痺側上肢を使用するようになった心理的プロセスについて研究しました。
⑥優しく親切(藤原先生)
⑦研究は大変ですが、とても勉強になるため、おすすめです。



①猪口 達也

西九州大学(1期生)



①横田 浩輝

西九州大学(4期生)

- ②聖マリア病院
③研究に関し興味があるものの、まだまだ勉強が足りないと感じていました。自分の武器を増やしたかったため、大学院への進学を決めました。
④西九州大学の卒業生であり、尊敬する恩師のもと、再度指導を仰ぎたいと思ったためです。
⑤がん患者の気持ちの対処能力(コーピング)に関する研究をしました。
⑥穏やか、The作業療法士(小松先生)
⑦(大学院への進学を)考えている時点で、進学した方がいいと思います。視野が広がります。やらずに後悔よりやって後悔!



- ②おそえがわ脳神経内科
③研究手法を学び、今後の臨床に活かしたいと思ったからです。
④西九州大学の卒業生で、馴染みがあったためです。佐賀県在住であり、勤務地からも近いので、西九州大学の大学院を選びました。
⑤介護従事者における腰痛予防行動とJHLC(健康行動統制感)について研究しました。
⑥優しく教えていただける、穏やかな先生!(小松先生)
⑦各専門の先生方がいらっしゃいます。学習を深めると共に、研修手法を学ぶにはとても良いと思います!



①吉村 玲往

西九州大学(11期生)

大学の取り組み

大学院博士後期課程の新設

西九州大学では、来年度から大学院に3つの専攻を新設することになりました。

現在ある8つの専攻に加え、健康福祉の分野に「スポーツ科学専攻(修士課程)」、看護学とリハビリテーション学を合わせた「保健医療学専攻(博士後期課程)」、「臨床心理学(博士後期課程)」を新設します。

大学・大学院ともに、専門的な知識や技能を持ち、地域で活躍できる人材の育成をテーマに、今後も教育・研究に努めて参ります。

卒業生の皆さんの中で、大学院に興味がある方は、西九州大学大学院への進学を検討してみたいはいかがでしょうか。ちなみに、卒業生のみさんの大学院の入学金は免除です!

西九州大学大学院

スポーツ科学専攻(修士課程)

保健医療学専攻(博士後期課程)

臨床心理学専攻(博士後期課程)

令和6年4月新設



八女市の健康増進施設で体力測定会を実施しました!

8月26日(土)に、八女市の健康増進施設で地域の方を対象とした体力測定会を実施しました。この体力測定会は、一昨年まで西九州大学にいらつした田中真一先生(令和健康科学大学)が代表者で、溝田勝彦先生や古後晴基先生(令和健康科学大学)も参加されました。久しぶりで先生方にもお会いできて、非常に楽しく、学びの多い体力測定会になりました。

体力測定会には、八女・筑後地域に住んでいる約60名の方に参加していただきました。握力や歩く速さなどの一般的な測定から、体組成や骨密度など日頃は測定ができないものまで幅広く評価し、自身の体力を知っていただく良い機会になったと感じています。

リハビリテーション学科の教員、在校生だけでなく、理学療法士・作業療法士として活躍している卒業生にも協力してもらいました。卒業生で測定会に興味のある方がいらつしましたら、ぜひお声かけください。一緒に活動できることを楽しみにしております。



ひとやすみ ~ 同窓会役員のつぶやき ~ 8期卒業生 釜崎 大志郎

西九州大学リハビリテーション学部8期卒業生の釜崎大志郎です。この度、同窓会役員としてご挨拶をさせていただくことになりました。少々お付き合ってくださいませ。

数年前に流行ったアニメ「鬼滅の刃」をご存知ですか?ある話の中で、主人公の竈門炭治郎さんが「悔しいなあ。何か一つできるようになっても、またすぐ目の前に分厚い壁があるんだ。すごい人はもっとずっと先のところで戦っているのに、俺はまだそこに行けない。何かできるようになってもまた分厚い壁にぶち当たる。」というセリフを吐きます。皆さんは何か打ち込んだり、努力したりしていることはありますか?何か打ち込み努力した結果、少し上達してきたかな...と思っても、すぐに次の壁が待っていて挫折しそうなことがあると思います。また、いとも簡単にやり遂げてしまうすごい人

もいるかもしれません。私自身も、そのような経験が多々あります。しかし、そんな時に焦って成果を求めたり、諦めたりしてしまうと何も得ることができません。毎日着実に努力をして、何度も何度も壁を乗り越えていくほかありません。

私が好きな言葉に「たゆまざる 歩み恐ろし 蝸牛」という言葉があります。これは、ある彫刻家が像の足元に一匹のカタツムリを見つけて、半日して再び像の元に行くと、そのカタツムリは10メートル弱ある像の頂点に登っていたのを見て詠ったものです。日頃から小さな壁・大きな壁たくさんの壁があると思いますが、カタツムリペースでも良いから少しずつ少しずつ自分のペースで努力を続けていきたいですね。自戒の念も込めて、私のご挨拶とさせていただきます。